

平成30年12月7日（金）
午後1時30分～@佐渡市議会



http://hiroshimurooka.com/documentandscript_201812

平成30年12月定例会 一般質問資料

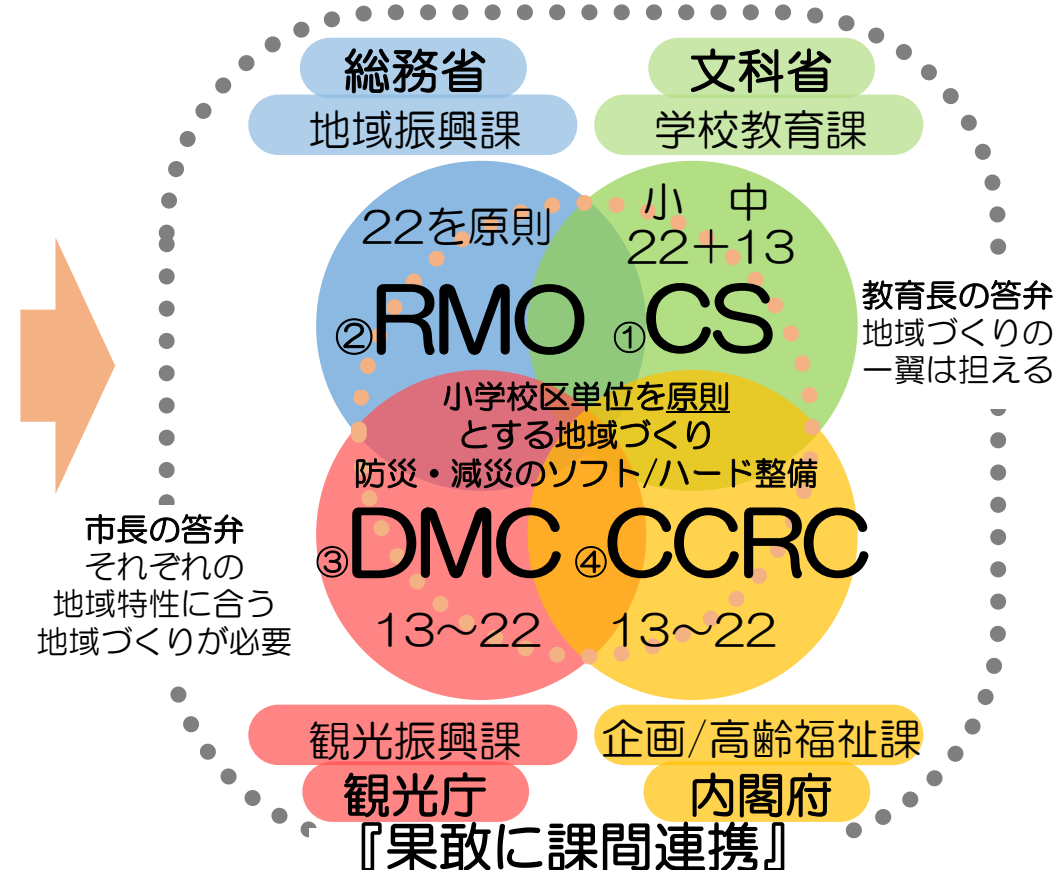
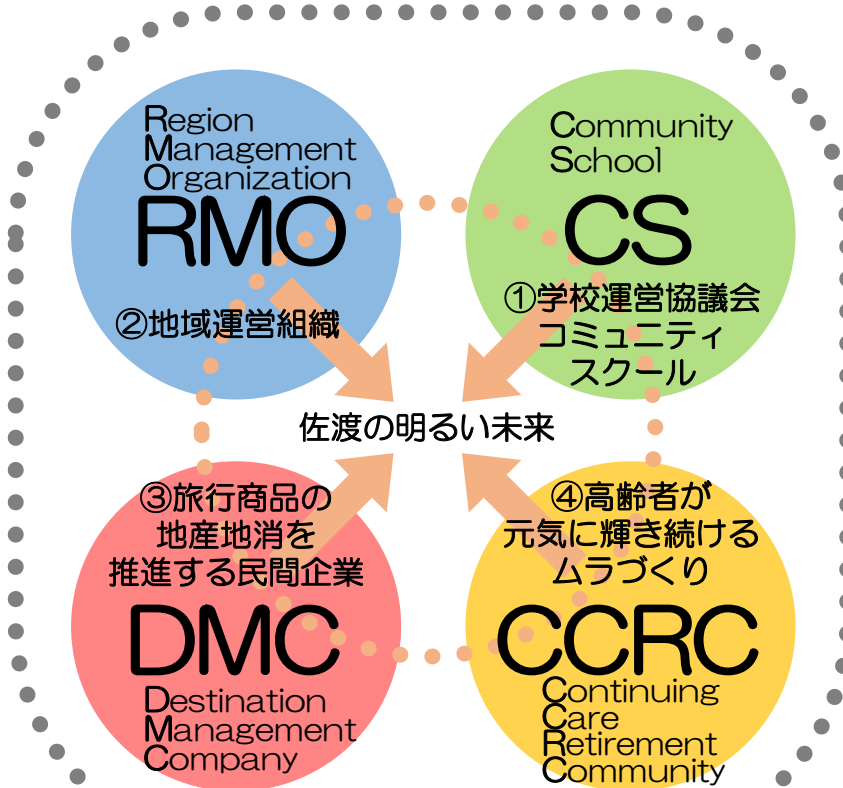
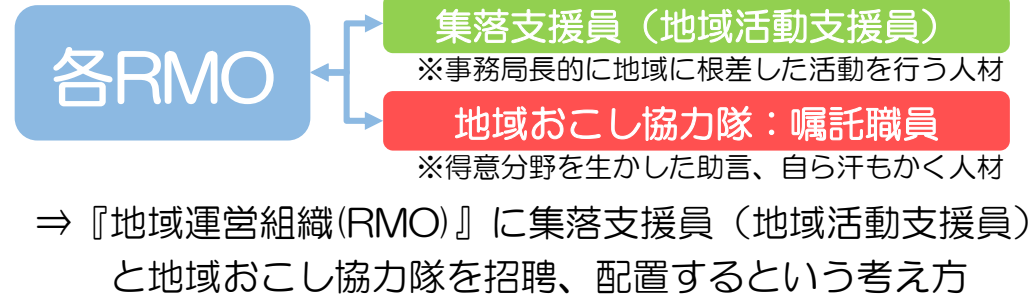
三度のメシより佐渡が好き！！！！ 政風会 幹事長 室岡啓史

▼小学校区単位を原則とする地域づくり①⇒②⇒③⇒④

◆佐渡市における『地域運営組織(RMO)』

昨年度、NPO法人・かみえちご山里ファン倶楽部 関原剛氏「地域づくり公開セミナー」(7/3)にて佐渡市の地域運営組織の適正な規模としては、22の小学校区が最も近いイメージ。

⇒『学校区』を原則に地域づくりを進めるべき！



『学校区』を原則に

▼防災・減災対策は『喫緊の課題』

◆地域防災力を高めるためには・・・

自助・共助・公助のうち、共助の意識を高める必要があると考える。市民の皆さんに対してどのように働きかけをするべきなのか？

▼佐渡市ハザードマップ

※2017年夏からスマートフォンでも閲覧可能に！



【出典】佐渡市防災関連情報
<https://gis4web.city.sado.niigata.jp/hz/>

ホーム > 新潟県内のニュース > 政治・行政 > 記事

すべて

社会

地域

政治・行政

経済

スポーツ

いいね! 0 シェア ツイート

防災・減災対策は「喫緊の課題」 花角知事が会見で対策重視の意向

花角英世知事は29日、記者会見で、7月の西日本豪雨に触れ「防災・減災対策が喫緊の課題だと痛感している」と述べた。自身が初めて編成する2019年度当初予算案で、河川改修を軸とした防災・減災対策を重視する意向を示した。

花角知事は「19年度の予算編成に反映させるべく、(県の)部局に検討をお願いしている」と説明。その上で「少ない予算で効果が出る方法や、お金をかけずに防災力が高まる方法などソフト、ハード合わせて考えたい」と強調した。

現行の河川改修は、豪雨の被害を受けた河川を復旧、改修する事後対応が優先され、被害を未然に防ぐ事前対応の工事は進みにくいとの課題がある。

そのため花角知事は28日、東京の財務省や国土交通省、自民党本部で政府与党の幹部と面会し、豪雨被害を受けていない河川についても早急な整備を行う「事前対応型の新たな治水事業」の創設と、予算の確保を要望していた。

花角知事は会見で、予算要望について「もう一段レベルアップした防災・減災対策をお願いに回った」と説明。本県としてどう対応するかは「これからの予算編成で詰めていきたい」と話した。

知事会見後、県土木部の吉田誠吾副部長は新潟日報社の取材に対し、「国への要望だけでなく、県として限られた予算でどう防災・減災対策をするか日頃から検討している。知事の指示に対応し、知恵を出していきたい」と話した。

【政治・行政】 2018/08/29 20:14

【出典】新潟日報モア


<http://www.niigata-nippo.co.jp/news/politics/20180829415557.html>

▼コミュニティスクールからスクールコミュニティへ

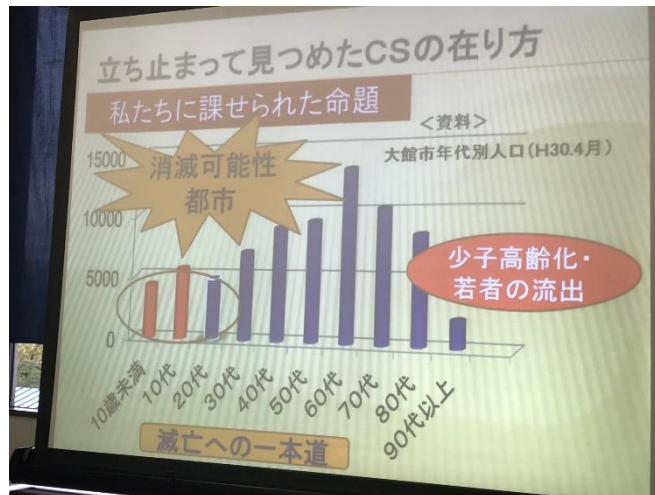
◆秋田県大館市の行政視察 コミュニティスクールからスクールコミュニティへのシフト、ふるさととキャリア教育

学校と地域をつなぐCSコーディネーター
○市教委より加配措置（非常勤）

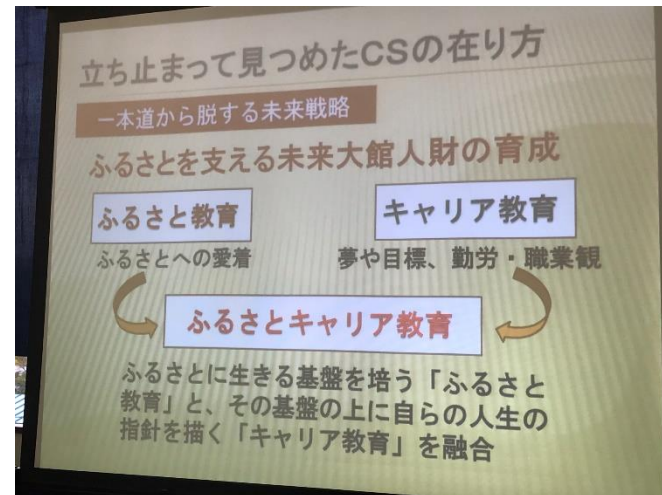
- ①授業者や担当者のニーズにあった地域人材、素材探しと交渉・連絡・調整
- ②地域委員会のセッティング
- ③地域への連絡（回覧等）
- ④広報活動
- ⑤地域ふれあいルームの整備
- ⑥外部機関との連携（児童センター・生涯学習課等）
- ⑦コミュニティ・スクールの事務局
- ⑧人材リストの整理
- ⑨学習プログラムの整理・蓄積



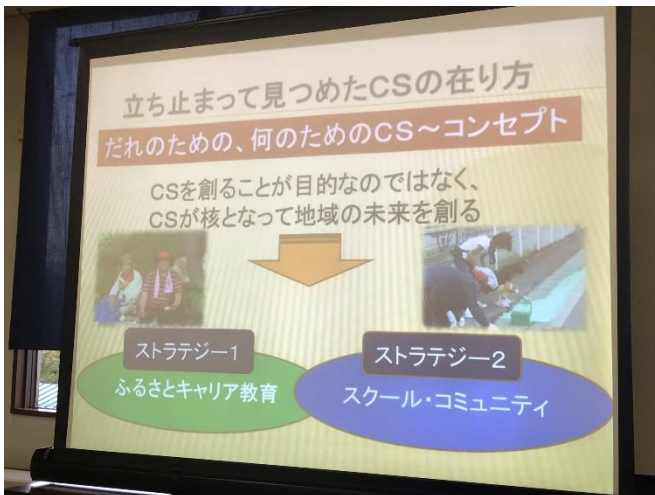
▲地域と学校とをつなぐCSコーディネーターの育成



▲少子高齢化・若者の人材流出を食い止めるためのCSの在り方





▲ふるさと教育+キャリア教育=ふるさとキャリア教育



▲ふるさとキャリア教育とスクール・コミュニティの連動

城西100年教育に向けて
成果

- 1 子どもたちに育まれた自己有用感・大人への信頼感・社会的役割の自覚
- 2 学校・保護者・地域住民の絆の深まり
- 3 大人の地域づくりへの参画意識の高まり・生きがいの醸成

ボランティア交流会 小・中生によるあいさつ運動

▲子どもの自己有用感・信頼感と大人の生きがいの醸成

城西100年教育に向けて
課題

- 1 子どもが地域を支え、創る活動
- 2 関係機関との連携の充実
- 3 コーディネート機能の充実





▲子どもが地域を支えるという考え、連携・コーディネート的重要性

▼高齢者が元気に輝き続けるムラづくり①「オークフィールド」八幡平

◆岩手県八幡平市の行政視察 日本版CCRCオークフィールド八幡平



▲岩手山を望むオークフィールド八幡平（日本版CCRC）



▲分棟で隣接するレストラン棟 薪ストーブも料理に活用される



▲オークフィールド八幡平の廊下 傾斜地にスロープを設計



▲オークフィールド八幡平の個室 省スペース化による水回りを設計



▲レストラン棟2階のスペース 壁面をスクリーンに説明



▲何も無いという贅沢を、オークから。 というキャッチコピー

▼高齢者が元気に輝き続けるムラづくり②シェア金沢

◆ごちゃまぜコミュニティ「Share金沢」

「Share金沢」をつくるのは私たちです。人と人が「幸せ」になる街をともに作り出します。かつての良き地域コミュニティを再生させます。「Share金沢」は、子どもから大学生、そして高齢者まで、世代や障害の有り無しを超えて、いろんな人が共に暮らす街。

◆天然温泉・レストランなどが揃い地域コミュニティをはぐくむ街

住人同士の交流はもちろん、地域の住民たちが楽しく集える街です。天然温泉、レストラン、ライブハウスなどのアミューズメント施設、人と人との交流を楽しむ施設や機能があります。

私がつくる街



人が直につながり、支え合い、共に暮らす街
それが「Share金沢」

高齢者、大学生、病気の、障害のある人、分け隔てなく誰もが、共に手を携え、家族や仲間、社会に貢献できる街。かつてあった良き地域コミュニティを再生させる街。いろんな人とのつながりを大切にしながら、主体性をもって地域社会づくりに参加する。あなたも「Share金沢」づくりに参加しませんか。



- サービス付き高齢者向け住宅 32戸
 - アトリエ付き学生向け住宅 2戸
 - 児童入所施設
- 3つの建物・4つのユニット



●サービス付き高齢者向け住宅 32戸

木の温もりあふれる木造住宅です。専有スペースは1LDK、大切な家族の一員、ペットとも一緒に暮らせます。テラスからは自然光と風が差し込み、街を包む木々の緑が見渡せます。リビングサロンなどの共有スペースも充実、程よい距離で人とのつながりを実感できます。



●アトリエ付き学生向け住宅 2戸

金沢美大生が創作に打ち込めるようアトリエ付きです。住人にも開放されていて、作家のたまごたちのアトワークを応援できます。アメリカ製キャンピングトレーラー、エアーストリームで生活します。



●児童入所施設 「3つの建物・4つのユニット」

知的障害をもつ子どもたちが4つのユニットに分かれて、3つの建物で暮らす「小規模ケア」を実現しました。一人ひとりに応じたきめ細やかなケアができるようになりました。



【出典】私がつくる街 シェア金沢
<http://share-kanazawa.com/>

▼高齢者が元気に輝き続けるムラづくり③ @両津病院跡地

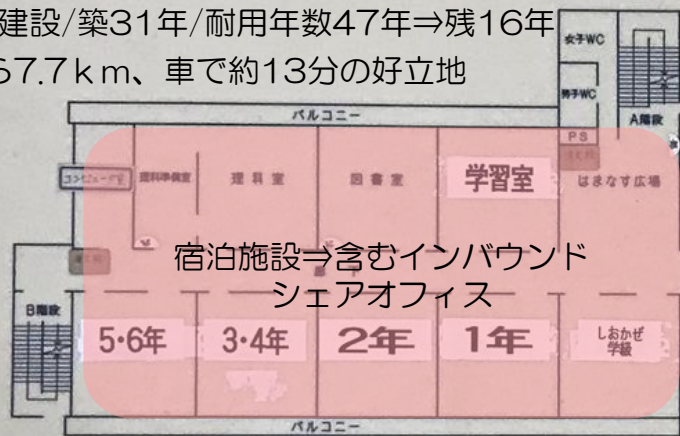
両津病院跡地において、CCRCをつくれないうか考える。行政がコーディネーター役を果たし、民間企業による事業推進が必須だと考える。



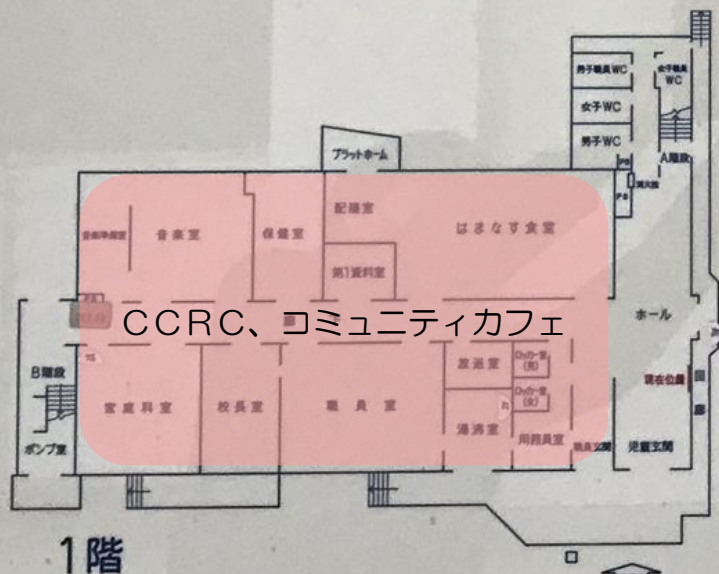
▼高齢者が元気に輝き続けるムラづくり④ @旧両尾小学校

◆旧両尾小学校

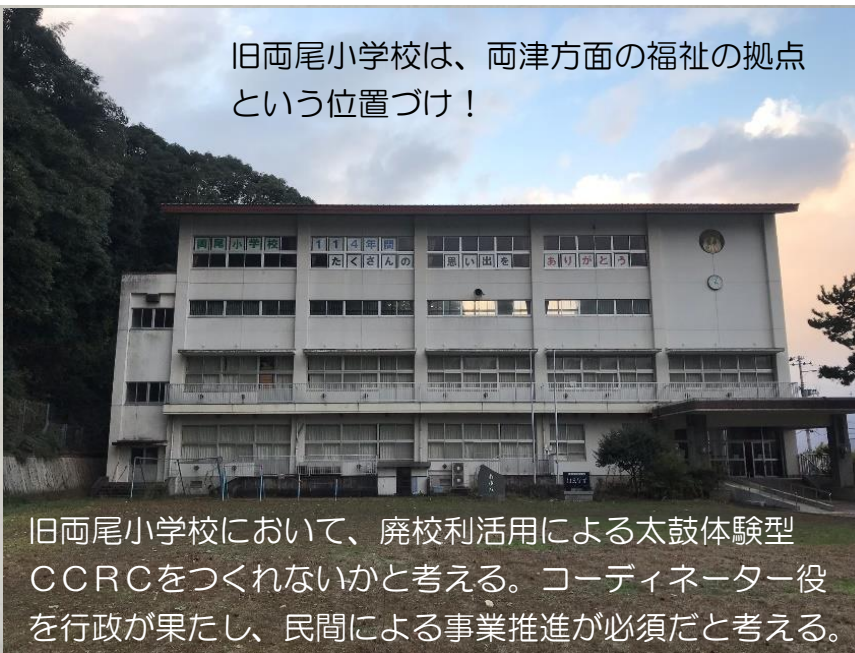
- 昭和61年建設/築31年/耐用年数47年⇒残16年
- 両津港から7.7km、車で約13分の好立地



2階



1階



旧両尾小学校は、両津方面の福祉の拠点という位置づけ！

旧両尾小学校において、廃校利活用による太鼓体験型CCRCをつくれなかと考える。コーディネーター役を行政が果たし、民間による事業推進が必須だと考える。



3階

建物、土地、太鼓の民間への無償譲渡は可能か？

▼環境省の一部を佐渡市へ誘致できないか？

◆本当の意味での『環境の島、佐渡』

トキとの共生を目指す環境保全型農業は、世界農業遺産登録や朱鷺と暮らす郷米づくりによって国内外から一定の評価を得たと考える。

今後、自然エネルギーの普及推進も見据え、佐渡が本当の意味での『環境の島』となり、全国のモデルとなるように環境省（本省もしくはその一部）を誘致し、実践のフィールドとして位置付ける提案。

環境省職員は約3,100人。一部であっても人口がそれだけ増え、経済波及効果や空き家利活用促進、逆参勤交代制度の実現等もあり得る。実現には当然、国・県との強力な連携が必要不可欠である。また、佐渡空港2,000m化の必要性も浮かびあがる。

▼2021年度中の京都への本格移転を目指す文化庁

▼2017年7月、消費者庁が徳島県庁に約50人規模の事務所を開設

▼2016年視察山形県鶴岡市メタボロームクラスター慶応義塾大学やスパイバー等の民間団体が数多く移転

	公害健康被害補償不服審査会 有明海・八代海総合調査評価委員会 国立研究開発法人審議会 臨時水俣病認定審査会
施設等機関	環境調査研修所
特別の機関	公害対策会議
地方支分部局	地方環境事務所
外局	原子力規制委員会

概要

法人番号	1000012110001
所在地	〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎第5号館  北緯35.673386度 東経139.753148度
定員	3,103人 ^[1]
年間予算	3,273億1,655万円 ^[2] (2018年度)
設置	2001年(平成13年)1月6日
前身	環境庁

【出典】ウィキペディア (Wikipedia)

◆県営佐渡空港2,000m化

佐渡版産業連関表による経済波及効果算出の必要性

- 初期費用（イニシャルコスト：I. C.）⇒約204億円
L I. C. の経済波及効果⇒不明
- 維持管理費⇒約2.4億円
- 運用費用（ランニングコスト：R. C.）⇒不明
L R. C. の経済波及効果⇒約46.9億円

▼59種類の栄養素をもつミドリムシをバイオ燃料として活用
⇒理論上、化石燃料に頼らず生物燃料として地産地消が可能

「国産バイオ燃料計画」の始動

2015年12月1日、羽田空港ANA格納庫において記者会見を開催し、「国産バイオ燃料計画」を1市4社の協力のもとで開始することを発表



日経新聞での広告(2015/12/3)



実証プラントの完成イメージ図



記者会見の様子 (2015/12/1)

【出典】<http://v4.eir-parts.net/v4Contents/>

こんな効果があります

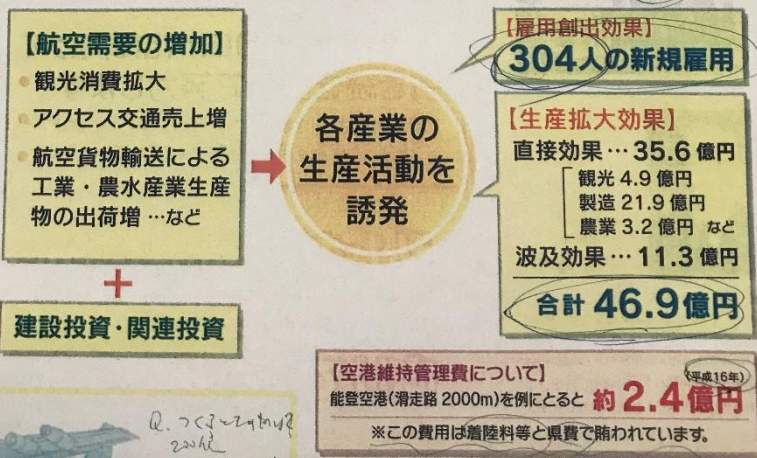


観光・製造業等の生産拡大に伴う
経済波及効果が見込まれます

佐渡空港2000m化実現によりジェット機の就航が可能となり、既存の航空会社の参入・羽田航空路線の開設が期待できます。そうすれば、新規航空需要が6万人/年程度見込まれ、観光需要の増大と製造業・農水産業の生産増大も見込まれます。

● 空港の維持管理費等が現在より増加するなどの側面があるものの、その経済効果約47億円/年と約300人の新規雇用が、地域経済の活性化に大きく寄与するものと考えられます。

佐渡空港2000m化による佐渡-羽田直行便(2往復/日)実現時の経済効果(年間)



【出典】佐渡新航空路開設促進協議会作成の会報誌

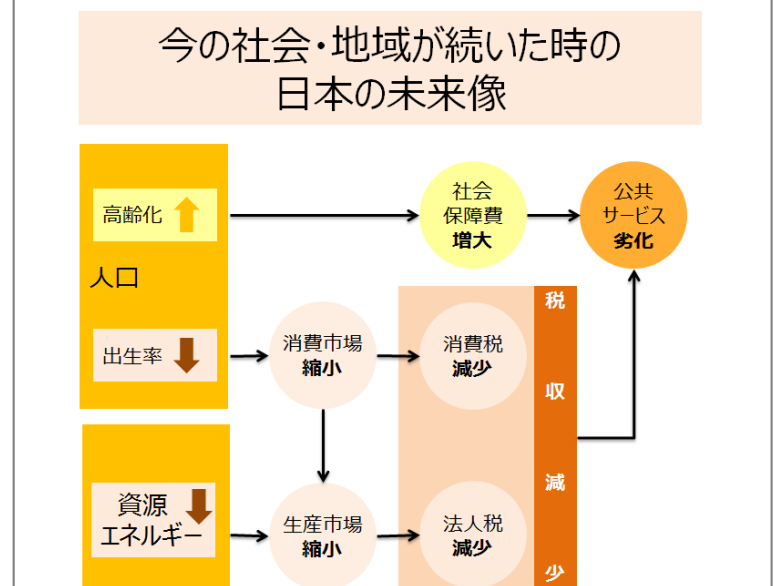
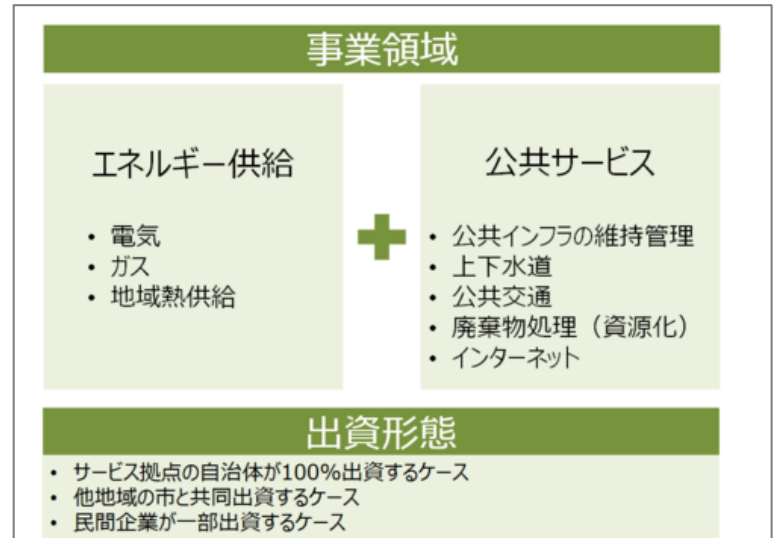
▼シュタットベルケ(自治体所有の公益企業)という考え方 11

◆シュタットベルケとは

(独STADT WERKE 英public utilities)

ドイツにおいて、電気、ガス、水道、交通などの公共インフラを整備・運営する自治体所有の公益企業（公社）です。シュタットベルケはドイツ語で直訳すると“町の事業”を意味する言葉です。

2000年前後のドイツの電力・ガス自由化後に大手企業が業界再編する中、公社であるシュタットベルケは地域密着のサービス提供と一定以上のコスト競争力により大手にも負けず、地域顧客を獲得してきました。その数はドイツ全体で約1,400社に上り、電気事業を手がけるシュタットベルケは900社を超え、ドイツの電力小売市場で約20%のシェアを維持しています。



みやまスマートエネルギー (福岡県みやま市)	市内で発電した太陽光発電の電気を通常より1円/kWh高く買電し、需要家への売電も実施することで電気の地産地消を目指す。水道とセットで毎月50円引、生活総合支援サービス（見守りなど）に申し込むと300円/月の還元など各種割引が存在。
ローカル エナジー (鳥取県米子市)	米子市と地元5企業で設立し、市内のゴミ焼却発電や太陽光発電等から電力を調達。8割が地産電源。
とっとり市民電力 (鳥取県鳥取市)	鳥取市と鳥取ガスが共同で設立し、エネルギーの地産地消を進め、地域の経済循環と活性化を図る。
サーラコーポレーション (愛知県豊橋市)	中部ガスを中心としたサーラグループはエネルギーの他、住宅販売、車販売、カルチャースクールなど生活全般サービスを地域密着で提供。

【出典】「おしえて！アミタさん」CSR・環境戦略情報ポータルサイト
<http://www.amita-oshiete.jp/qa/entry/O15041.php>

【出典】シュタットベルケ (STADT WERKE) とは？
 「地方創生注目ワード」

▼佐渡の台所事情⇒ハマの台所事情に学ぶ①

◆横浜市 ハマの台所事情に学ぶ

新潟県をも凌ぐ、政令指定都市でも最大の人口を擁する巨大都市との比較

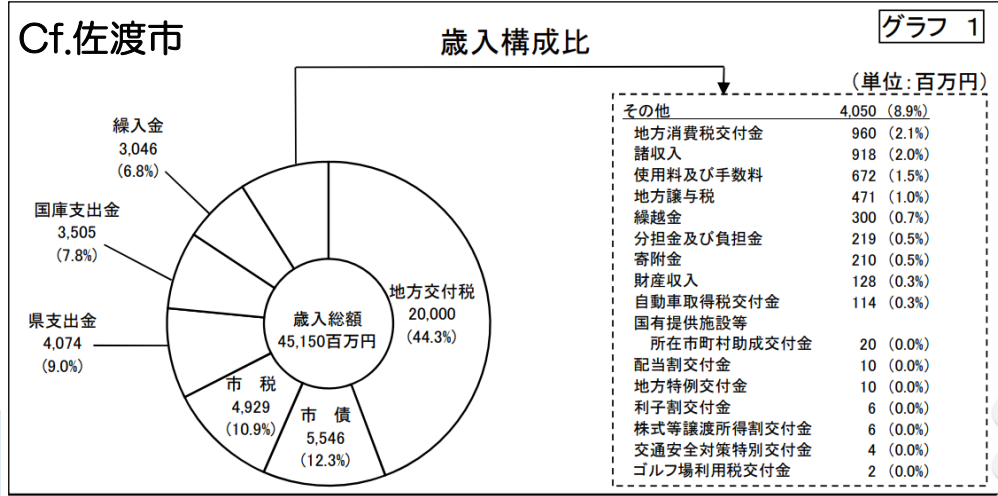
- 人口：373万人（佐渡市の65.4倍）
- 世帯：167万世帯（佐渡市の69.2倍）
- 面積：435平方km（佐渡市の0.5倍）
- 当初予算：1兆7,300億円（佐渡市の38.4倍）

横浜市の予算を家計簿に置き換えると

横浜市の1年間の予算を、家計の項目で考えるため20万分の1に縮小し、さらに12分の1にして、1ヶ月分にしました。

収入	平成29年度
給与	404,313円
基本給	298,442円
市税	
諸手当	105,871円
地方譲与税、県税交付金、地方交付税など	
家のリフォームの助成金、奨学金など	152,036円
国、県支出金	
パート収入、家財の売却による収入など	71,149円
使用料、手数料、財産収入、繰入金、諸収入	
家のリフォームや車の買換えのための、銀行からの借金	58,290円
市債	
合計	685,788円

支出	平成29年度
食費	148,723円
人件費	
医療費・保育料など	195,577円
扶助費	
家のローン返済	77,074円
公債費	
光熱水費・日用品費・教育費など	103,043円
行政運営費	
家のリフォーム、車や家財道具などの買換えなど	79,342円
施設等整備費	
1人暮らしの家族への仕送り	82,030円
繰入金	
合計	685,788円



◆佐渡の台所事情

佐渡市の場合、億円の単位を万円に代えると、一世帯あたりの収入・支出と同じ感覚でとらえることができる。⇒市民の皆さんへの佐渡市政への関心を高めることができると思う。

▼当初予算

451億円⇒年収451万円

▼税収

49億円⇒稼ぎが49万円

▼地方交付税

200億円⇒手当が200万円

∴ふるさと納税等による稼ぎがもっと必要！！

【出典】平成29年度 横浜の家計簿ハマの台所事情

▼佐渡の台所事情⇒ハマの台所事情に学ぶ②

◆横浜市 ハマの台所事情に学ぶ ⇒デザイン化された図表でより分かりやすく見せる工夫が見て取れる。

一般会計歳出(支出)

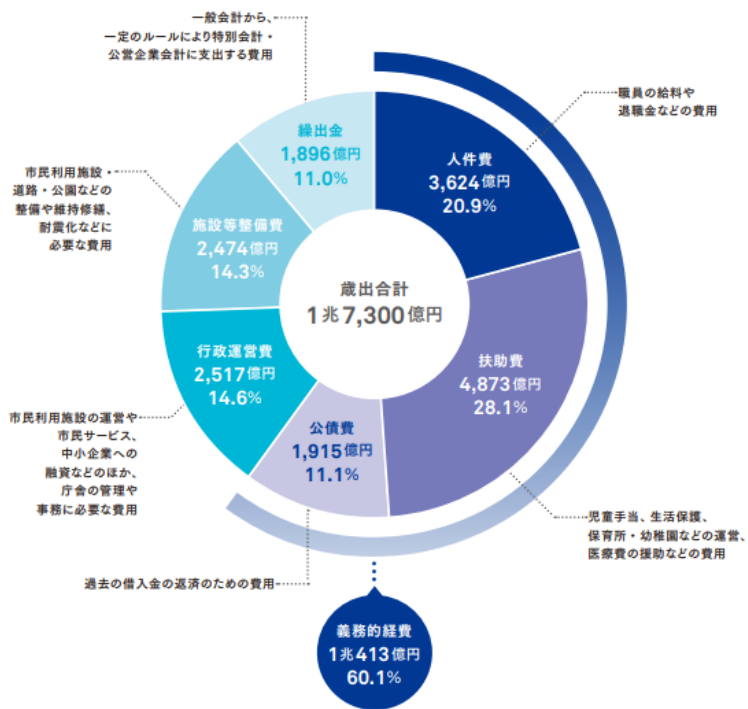
税金などの収入は何に使われているの？

A 市民生活をささえる行政サービスに使われています。

どのような性格の経費として使われているのか(性質別)、
どのような分野の行政サービスに使われているのか(目的別)、
2つの視点から見る事ができます。

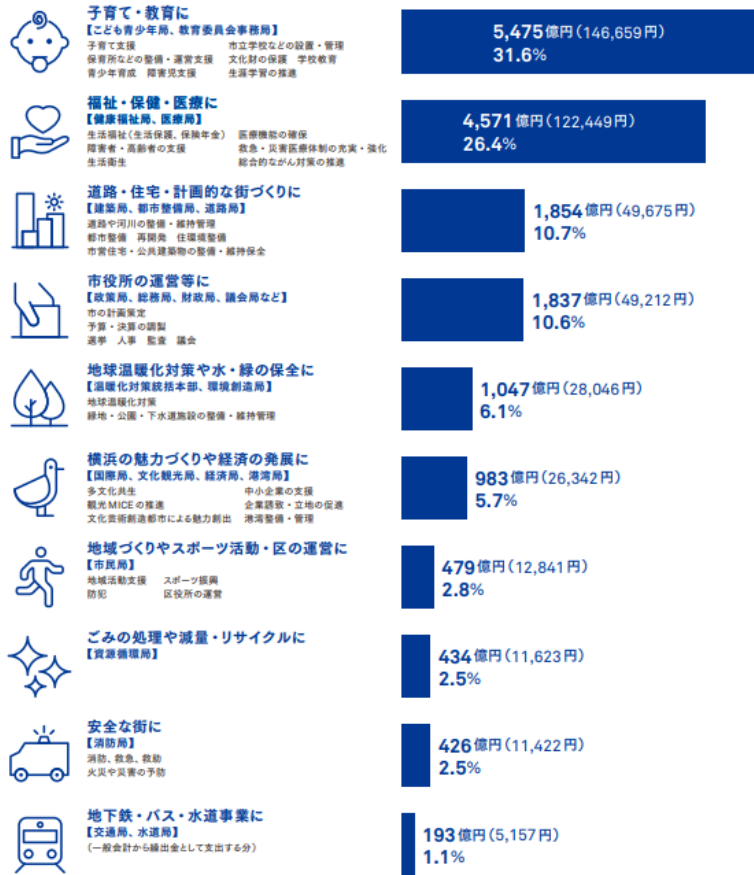
一般会計予算額 [性質別]

関連
一般会計歳出予算額の推移 14ページ



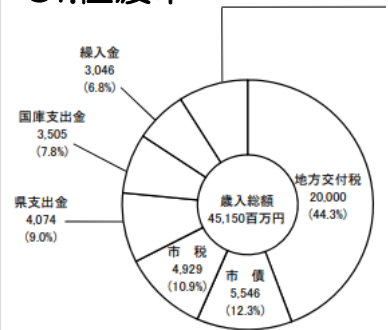
一般会計予算額 [目的別]

子育てや福祉、道路や港湾の整備など、幅広い分野に使われています。
中でも「子育て・教育」「福祉・保健・医療」のための割合が大きくなっています。

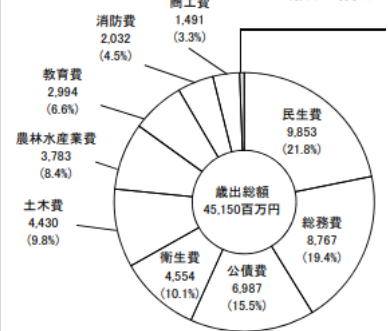


歳出合計 1兆7,300億円(市一人あたり予算* 463,426円)

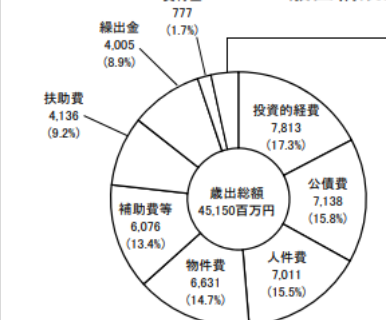
Cf.佐渡市 歳入



歳出構成



歳出構成



▼SDGsの取り組み⇒SaDoGsへ

◆SDGsとは・・・

持続可能な開発目標のことで、Sustainable Development Goalsの略。2015年に国連本部で日本を含む193の加盟国の合意の下で採択された「世界を変革するための17の目標と169のターゲット」のこと。持続可能性を地球規模で考えた時に、非常に重要な目標であり、一部民間企業や日本青年会議所等も力をいれてSDGsの実現に取り組もうとしている状況にある。



世界を変えるための17の目標



【出典】【1分で分かる】世界を変革するための17の目標「SDGs」

SDGs
a o a h i m a

◆佐渡市の取り組み・・・

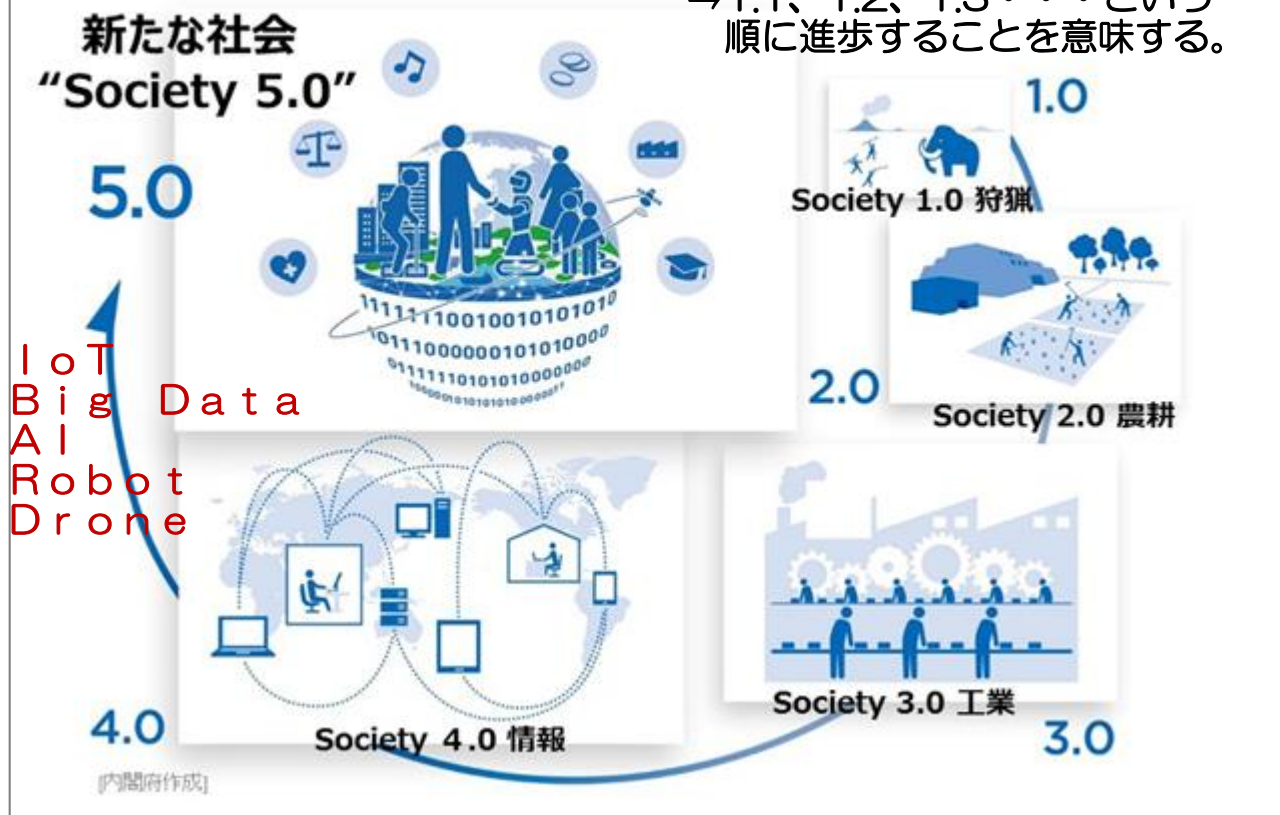
トキとの共生を目指す環境共生型農業をはじめとする生物多様性の推進、レジ袋の有料化、消費者協会が取り組む3010運動、クールビズやゴーヤカーテンをはじめとするクールチョイスなど、既に佐渡市として取り組んでいるSDGsはたくさんある。

⇒まずは情報の整理、佐渡市将来ビジョンへの掲載をするべき！

▼Society (ソサイエティ=社会) 5.0とは・・・

◆超スマート社会、2045年にAIが人類の知性を超える！？=『特異点』

※『1』ではなく、『1.0』の理由
⇒1.1、1.2、1.3・・・という
順に進歩することを意味する。



【出典】内閣府ホーム＞内閣府の政策＞科学技術政策＞Society 5.0

▼究極の哲学：人は何のために生きるのか？

人は何のために学ぶのか？人は何のために働くのか？人類はどこから来たのか？この世は誰がつくったのか？神は存在するのか？ヒマが生まれることで、人は問を立てて考える必然性が今よりも強くなるのではないか？

▼人類の進化のプロセス

- ①狩猟社会
- ②農耕社会
- ③工業社会
- ④情報社会
- ⑤〇〇社会⇒超スマート社会

▼地方創生に追い風ではないか？

AI(人工知能)やスマートロボットの活躍による地方で営む一次産業の人材不足解消。首都圏でのオフィスワーカーの雇用喪失。都市⇒地方への人口の流動がおり、地方に光が落ちるのではないかと推測している。

▼一次産業～二次産業～三次産業

一次産業ほど、AIがサポート役に？
三次産業ほど、AIが取って代わる？



【出典】エン転職『二次産業って？』

▼ヒト⇒トキ⇒キン：しりとりによる佐渡らしさの伝え方 16

◆人に逢う観光 ≡ 観光地域づくり

大正大学地域創生学部の学生の地域実習で、学生と意見交換をする機会を得た。佐渡の地域資源は、色々あるけれど、人やトキや金山ではないか。気付いたことは、しりとりで佐渡らしさを伝えることができる。しかし、ヒト⇒トキ⇒キンと続くと、しりとりは終わってしまう。観光地域づくりの中で逆の流れをつくることできれば、リピーターの増加、関係人口の創出、ひいては観光振興になるのではないかと考えてたどり着いた。

